ENEOS スーパー耐久シリーズ2026
Empowered by BRIDGESTONE
第6戦 スーパー耐久レースin岡山
ENDLESS SPORTS レースレポート

#3 ENDLESS GR86

参戦クラス：ST-4クラス

Aドライバー：坂 裕之

Bドライバー：菅波 冬悟

Cドライバー：小林 利徠斗

Dドライバー：島谷 篤史

監督：中村 稔弘

＜#3 ENDLESS GR86＞

開幕戦もてぎ、第2戦鈴鹿でともに2位、第3戦富士24時間レースで3位表彰台を獲得し、第4戦SUGOで今シーズン初優勝を飾った#3 ENDLESS GR86。86.50ポイントを獲得し、シリーズランキング首位で岡山大会を迎えた。2位の#41 HC GALLERY EXEDY GR86 WINMAXは83.00ポイント、3位の#884 シェイドレーシング GR86は72.00ポイント。残り2大会となる中、シーズンタイトル獲得へ向けて重要な一戦に臨む。

今大会では、ST-2クラス最大となる60kgのサクセスウエイトを搭載。ライバルの#41と#884がともに40kgであるのに対し、20kg重いウエイトを背負っての戦いとなる。決勝は3時間レースで、2回のピットインを挟み、3名のドライバーでつなぐ予定だ。厳しい条件の中でも上位を狙い、最終戦の富士大会へ向けて貴重なポイントを積み重ねたい。

＜予選＞

A 坂 裕之　　1’44.452 クラス2番手

B 菅波 冬悟　　1’43.964 クラス5番手

C 小林 利徠斗　1’45.417 クラス3番手

D 島谷 篤史　　1’47.028 クラス3番手

→予選結果：4位／10台中

レースウィーク木曜、金曜の練習走行はドライコンディションだったが、予選・決勝と台風30号の影響で激しい雨が予想されていた。

10月24日（土）、ST-4クラスの予選は13時40分からスタート。朝まで降っていた小雨は止み、天候は曇り。路面にはわずかに水分が残るものの、レインタイヤを使用するほどのコンディションでは無かったため、スリックタイヤでのアタックとなった。気温は20℃ほどとこの時期としては高め。徐々に路面が乾いていく中で予選が行われた。

練習走行から感じていたマシンの扱いやすさを予選でも発揮、Aドライバーの坂はクラス2番手の好タイムをマークした。一方、Bドライバーの菅波は走行中に再び雨が降り始め、タイムを伸ばし切れずクラス5番手となった。それでも、60kgのサクセスウエイトを搭載する条件を考えれば、上々の結果といえる。

続く小林は、多めの燃料と中古タイヤながら1分45秒417を記録。本人からはマシンバランスの良さのコメントがあった。島谷も1分47秒028をマークしマシンの状態を確認。3時間レースの今回は決勝での乗車を予定していないが、社員ドライバーとしてブレーキ・サスペンションを含めたチェックに努めた。

予選結果は総合4番手。シリーズランキングでクラス2位の41号車がポールポジションを獲得しているため、決勝ではなるべく上位へ食い込みたい。

＜決勝＞

決勝結果：2位

10月25日（日）、この日は台風の影響で天候と路面を読むタフなレースになることが見込まれた。朝は曇り空となったが、天気予報では10ミリのまとまった雨が予想された。8時からのグリッドウォーク中には大粒の雨が降り始め、チームはレインタイヤへの変更を決断した。

スタートドライバーは菅波が務める。通常は60分のAドライバー最低乗車時間を消化するため、Aドライバーをスタートドライバーに起用することが多いが、そのスティント中に雨が降り始めると、タイヤ交換のためにピットインしても、最低乗車時間を満たすまでは交代できない。そのため天候の変化に応じて柔軟に戦略を組み立てられるよう、今回は菅波からスタートする作戦を選択した。

8時30分、セーフティカー先導で決勝レースがスタート。1周目を終えるとセーフティカーがピットへ戻り、グリーンフラッグが振られた。4番手からスタートした菅波は6周目に3位へ浮上。さらに7周目には、シリーズランキング2位の41号車をパスして2位に立つ。タイトル争いの直接のライバルを先行し、ポイント差を広げるべくトップを追う展開となった。

スタートから約30分が経過した時点で菅波は2位を走行。しかし、背後からは#37 DXLパワーミネラルEVO☆NOPRO☆NCロードスターが迫ってくる。ストレートスピードで勝る相手に対し、菅波は懸命にポジションを守ったものの、17周目に先行を許して3位へ後退した。

27周目にはコースアウト車両の発生により、1回目のFCY（フルコースイエロー）が導入される。しかし、#3 ENDLESS GR86は走行位置の関係でピットインできず。FCY解除後、1コーナーで再びコースアウト車両が発生し、2回目のFCYが導入される。このときもピットインできる位置にはおらずコース上で走行を続けた。一方884号車はFCY間際のピットインに成功、大きなアドバンテージを手に入れた。

34周目、1回目のピットインを実施。当初は坂へ交代する予定だったが、884号車のアドバンテージ、シリーズを見据えたポイントの死守、雨上がりの難しい路面状況を踏まえ、小林へドライバーを変更。スリックタイヤへの交換と燃料2本分の給油を行いコースへ送り出した。

ST-4クラスの給油は20Lごとのクイックチャージ方式で行われる。1本給油では短時間でピットアウトできる一方、2本または3本を給油する場合には最低ピット停車時間が定められ、今回は95秒となっている。ここで2本給油を行い、2回目を1本給油のスプラッシュピットとする戦略だ。

小林は4位でコースへ復帰し、前方の41号車を追う。1分49秒938のチームベストタイムを記録するなど、追い上げを開始。早めにスリックタイヤへ交換した判断が功を奏し、給油2本の作業を行いながらも、1本給油だった41号車のすぐ後方でレースを進めることとなった。

57周目、残り約1時間で2回目のピットインを実施。小林から坂へ交代し、タイヤは無交換、給油は1本のみのスプラッシュピットでコースへ復帰する。坂は最低乗車時間を消化しながら上位を狙う。

この時点の首位は、ピットイン回数が1回のみ41号車。坂は2位、その後方に884号車が続いていた。884号車は速いペースで差を詰め、一時は坂をかわしたものの、ピットレーン速度違反が提示されドライブスルーペナルティを消化。後方と大きく差が付き、坂は2位を維持して周回を重ねる。

77周目、首位の41号車が最後のピットインを行う。給油1本と左側タイヤ2本の交換を終えると、#3 ENDLESS GR86に約1分の差をつけ、首位でコースに復帰した。2位を走る坂の後方からは、再び884号車が迫る。約35秒あったギャップが徐々に縮まったが、坂もペースを上げて応戦。16秒ほどの差を保ちながら、チェッカーを目指した。

11時30分、坂は2位でチェッカーを受け、#3 ENDLESS GR86は4番手グリッドから順位を上げ見事表彰台獲得となった。不安定な天候と重いサクセスウエイトに対応し、ドライバー陣とチームがつないだ価値ある2位となった。

一方、優勝は41号車となり、シリーズランキングトップへ浮上。#3 ENDLESS GR86はシリーズランキング2位へ後退することとなった。しかし、その差はわずか3.50ポイント。最終戦の富士大会で上位に立ったチームがシリーズチャンピオンを獲得する状況となった。#3 ENDLESS GR86の2年ぶりのタイトル、そして#13 ENDLESS GRYARISとのWチャンピオンに向け、最終戦富士に臨む。

【FCY導入】

1回目：09:23'57(27Laps)～09:26'40(28Laps)

2回目：09:27'55(28Laps)～09:32'38(29Laps)

＜ドライバー・監督コメント＞

●A ドライバー 坂 裕之

約3ヶ月ぶりとなる走行でしたが、全体を通してまずまずのタイムで走行する事が出来たと思います。新たな仕様のサスペンションも乗りやすく、菅波選手のセッティングや小林選手のアドバイスにも助けてもらって安定したタイムで走る事が出来ました。

レースでは最終スティント担当やタイヤ無交換など初めてだらけでしたが、展開にも助けられてなんとかポジションキープでチェッカーを受ける事が出来ました。

結果は2位と一歩及ばずでしたがシリーズチャンピオンの争いにはしっかり食い込んでますので、最終戦も優勝して頑張ります。ご声援ありがとうございました。

●B ドライバー 菅波 冬悟

今大会、チャンピオン争いをしている41号車に比べてパフォーマンスが不足している状況が続きましたが、チームのオペレーションも良く、ドライバーもミスがなかったことで最低限の2位を獲得出来ました。

最終戦で前でゴールした方がチャンピオンという状況になりましたので、次戦に向けてはチームと共に根本的なパフォーマンスアップにつとめます。シリーズチャンピオン獲得に向けて頑張ります。最終戦も応援よろしくお願い致します。

●C ドライバー 小林 利徠斗

決勝は不安定な天候の中で急遽坂選手と乗車順を変更し、スリックタイヤでピットアウトしました。コースイン直後からリスク管理をしながらも攻め続けることができました。スティント中は路面がどんどん良くなる方向で、タイヤの落ちを感じませんでした。またセット面は、前後バランスは良いもののペース的に＃41号車に比べて0.5秒ほど遅いため、恐らくタイヤをグリップさせられていないのが原因かと思いました。

安定した周回は出来ましたが、足回りの根本的な方向性から見直すポイントがありそうなので、最終戦に向けて相談していきたいです。ありがとうございました。

●D ドライバー 島谷 篤史

3ヵ月のインターバルを経て、ランキング首位で迎えた第6戦岡山大会。ウエイトハンデもライバルチームより20kg重い60kgとなり、ますます厳しい戦いが予想されましたが、限られた時間の中でチーム一丸となってセッティングを進め、良い感触で予選4番手から決勝に臨みました。

決勝では車重の影響もあってライバルチームの先行を許す展開となりましたが、不利な状況の中でも菅波選手、小林選手、坂選手の3人のドライバーとチーム、メカニックがミス無く繋いで2位までポジションアップする事が出来ました。泣いても笑ってもあと1戦。シリーズチャンピオン目指して出来る限りの準備をしたいと思います。

今回もチームエンドレスを応援していただきありがとうございました！

●監督 中村 稔弘

前戦の菅生大会から3カ月のインターバルが空き、久しぶりのレースとなりました。昨年はクラス休催のため岡山大会は不参加となり、2年ぶりの岡山国際サーキットです。2年前の岡山大会はドライバーからのブレーキ評価が芳しくなく、その時から開発を進めてきた成果が問われる今回のレース。果たしてドライバーからどんな評価が出るか、楽しみに挑みました。

前日の雨の影響で路面はウエット。天候が回復に向かう難しいコンディションの中、Aドライバーの坂選手が2番手の好タイムを記録。続くBドライバーの菅波選手は、雨がぽつりぽつりと降る中でのアタックとなり5番手タイムを記録し、予選合算で4番手となりました。

翌日の決勝は3時間レースと、今年のスケジュールの中で最も短いレースです。優勝するためにどう戦うか全員でミーティングを行い、スタートドライバーはどんな展開にも臨機応変に対応できるよう、Bドライバーの菅波選手に託しました。

朝から天気予報ばかりを気にかけ、今後の雨雲の動きをチェック。朝の時点で雨は止んでいるものの、路面はウエット状態です。予報では途中から雨が降ることになっており、荒れたレースになりそうな予感がありました。スタート進行中、突如雨が強く降り出したためレインタイヤへ変更しスタートとなりました。

スタート後は順調に順位を上げ、7周目には2位へ浮上。しかし、トップを走る884号車はペースが速く、少しずつ差を広げられる展開となります。その後は追撃の雨が

降らず、路面が徐々に乾いていく展開となったため、レインタイヤからスリックタイヤへと切り替えるベストなタイミングでCドライバーの小林選手へ交代。まだ路面が濡れている箇所が残る中、スリックタイヤで難しいコンディションを走破し、素晴らしいタイムを連発してトップの884号車に迫っていきました。

しかし、トップ勢以上のペースで41号車が周回を重ね、だんだんと離されていく展開に。残り時間が1時間となったところで、Aドライバーの坂選手へ交代します。ピットアウトすると、順位は2番手に浮上。小林選手の力走のおかげで、884号車の前でコース復帰を果たすことができました。途中、884号車がペナルティを受けて後退したこともあり、そのまま2位でチェッカーを受けました。

今回優勝した41号車はポイントランキング2位の車両だったため、こちらのランキングは2位へ後退してしまいましたが、まだまだ十分逆転可能な差です。次戦の最終戦・富士で優勝し、シリーズチャンピオンを獲得できるようしっかりと準備を進めてまいります。富士でも熱い応援をよろしくお願いいたします！